

【1班 活動前半のまとめ】

■水の学習について

- ・ 深海の生き物と水との関わり
→海中ロボットを使うことによって人が行けないような場所も探索可能になった。
- ・ 水は地球温暖化と密接な関係がある→海流など
→世界中を絶えず循環しているけど、地球温暖化によってその循環も止まってしまう可能性がある。(グリーンランドから沈み込む深層海流)



データの視覚化（地球上の淡水と海水の割合を分かりやすく解説）

また、水槽を使って、冷やされた海水が沈んでいく様子を実験してくれました。

■わたしたちはこんな展示をつくらしてみたい

- ・興味を持たせるためのアートとは？

→スイスの博物館を参考にする（木村先生の講義より）。インパクトのある色（赤、オレンジなど）を使うことにより、見る順番を示唆させる。アートでひきつけさせ展示に興味を持たせる。

- ・誰にでも内容が分かるような展示をめざす

→専門的な内容も小中学生に分かりやすいように、体験的なものや実験的なものを取り入れる。

水の科学館も未来館も共通してコンピューター端末が多く、それによって知りたかったことを詳しく理解できた。またどちらの科学館もゲーム、クイズ形式が取り入れられたいたので、楽しく知ることができた。

- ・データを視覚的に見えるようにする

→原田先生が、海水と淡水の割合を目に見える形で紹介した。地球全体の水をドラえもんの頭、淡水部分を赤いドラえもんの鼻に例えることにより淡水の少なさが視覚的に伝わり、インパクトを受けた。



日本科学未来館「ケープフェアウェル アートを通して気候変動を知る」より
アレックス・ハートリーの作品 この展示会ではアートを通して気候変動を伝えている

■私たちのこれからやってみたいこと

- ・ 水について多角的に伝えたい
 - 科学的な面や環境問題、生活面などの様々な面で私たちの身近にある水をそれぞれの面から水について考えてみる。
- ・ 地球温暖化とはなにか伝えたい
 - 自分たちで理解して(現状、解決策など)他人に伝え、地球温暖化という問題を共有できるように。
- ・ 状態変化が、他のものとどのような関係を持っているか(固体、液体、気体)→水の循環について雨→土→川→海→雲→雨の流れの関係、環境問題について理解を深めたい。
- ・
- ・ 水に関わる生き物について(深海に関わらず)、色々な魚がいることを図解付きで表現できたら面白いのではないかと。私たちの見ることができない世界を知りたい。

■感想

よく見ている博物館の展示には見る人のことを考えて様々な工夫があることに気づきました。やはりすごい研究をしてもそれを色々な人にわかりやすく伝えることができなければいけないと思うので、ぼくたちも見る人のことを考えた子供から大人までわかりやすい展示を作っていきたいと思います。